

別紙1 スギ花粉ペプチド含有イネ及びノボキニン蓄積イネの栽培管理及び交雑調査結果

1. 種子等の拡散防止措置

- 防鳥網設置 令和2年7月7日（火曜日、観1 隔離ほ場）
令和2年7月8日（水曜日、観2 隔離ほ場）
令和2年6月2日（火曜日、観3 隔離ほ場）
- 防鳥網撤去 令和2年10月7日（水曜日、観1 隔離ほ場）
令和3年1月7日（木曜日、観2 隔離ほ場）
令和2年11月26日（木曜日、観3 隔離ほ場）

2. 収穫以降の処理

○収穫（稲刈り）

- 令和2年10月6日（火曜日、観1 隔離ほ場）
- 令和2年10月7日（水曜日、観2 隔離ほ場・観3 隔離ほ場）

・栽培したイネは、稲刈り後に隔離ほ場内の作業棟内において乾燥後、脱穀を行いました。

・収穫量（粗もみ重量）

＜スギ花粉ペプチド含有イネ＞

- 3.7kg（観1 隔離ほ場）
- 3.7kg（観2 隔離ほ場）
- 2.3kg（観3 隔離ほ場）

＜ノボキニン蓄積イネ＞

- 4.1kg（観1 隔離ほ場）
- 4.3kg（観2 隔離ほ場）
- 5.0kg（観3 隔離ほ場）

・収穫物は密閉容器等に入れ、他の種子と区別して実験室や低温室に保管しています。

・収穫物は、野外栽培における生育特性等の調査や種子の成分分析等の材料として使用します。

○残渣処理 令和2年10月7日（水曜日、観1 隔離ほ場）

- 令和3年1月7日（木曜日、観2 隔離ほ場）
- 令和2年11月26日（木曜日、観3 隔離ほ場）

・観1 隔離ほ場及び観3 隔離ほ場では、収穫（稲刈り）後、水田内に残った残渣（ワラ等）や株は、不活化処理のために隔離ほ場内水田内に鋤き込みました。

・観2 隔離ほ場のみ越冬性試験を実施し、令和3年1月3日にひこばえの枯死を確認しました。その後、枯死したひこばえは地下部と共に、隔離ほ場水田内に鋤き込み処理しました。

・脱穀後に残った残渣等は、不活化処理のためオートクレーブや焼却にて処分あるいは隔離ほ場水田内で裁断して鋤込みました。

3. 交雑調査

○調査方法

・交雑の確認は、キセニア現象（モチ品種にウルチ品種の花粉が受粉すると玄米が半透明になること）を利用して行いました。モニタリング用の指標作物として、栽培した遺伝子組換えイネと開花期が重複するモチ品種「関東糯236号」を用いました。

- ・観音台第1事業場では4か所、観音台第2事業場では10か所、観音台第3事業場では6か所、それぞれの隔離ほ場を囲むように各事業場敷地境界等にモニタリング用指標作物を植えたポットを設置しました。（各隔離ほ場におけるモニタリング用指標作物の配置場所については別紙2参照）
- ・モニタリング用指標作物の配置期間
 - 令和2年8月19日（水曜日）～9月8日（火曜日、観1隔離ほ場）
 - 令和2年8月20日（木曜日）～9月11日（金曜日、観2隔離ほ場）
 - 令和2年8月19日（水曜日）～9月7日（月曜日、観3隔離ほ場）

○調査結果

- ・モニタリング用指標作物から収穫した種子について、観1隔離ほ場では14,096粒、観2隔離ほ場では13,167粒、観3隔離ほ場では11,590粒を調査しました。その結果、キセニア現象を生じていたものは各事業場ともに0粒で、交雑は認められませんでした。

別紙 2 農研機構隔離ほ場及び交雑調査に用いたモニタリング用指標作物の配置図



各隔離ほ場は筑波農林研究団地内に位置しています。

図 1 つくば市観音台地区周辺の地図と各隔離ほ場の配置



図 2 観音台第 1 事業場高機能隔離圃場（緑色）周辺のモニタリング用指標作物の配置場所（赤数字）



図3 観音台第2事業場隔離ほ場（緑色）周辺のモニタリング用指標作物の配置場所（赤数字）



図4 観音台第3事業場組換え植物隔離ほ場（緑色）周辺のモニタリング用指標作物の配置場所（赤数字）